



荒川 恒男
(共産党)

**LRT導入より先に
高齢者外出支援
事業の拡充を**

問 市長はLRT導入を、誰もが外出や交流ができる交通環境の創出としてバラ色に描いているが、そもそも多くの高齢者はLRTの停留所までたどりつけないだろう。高齢者は、わずかな負担でバスに乗れるおでかけ定期券や、バスが生涯無料となる定期券の発行などを望んでいるのではないか。現行の、年間5千円のバスカードでは、高齢者の運転免許自主返納の促進にはならないのでは。

答 助成対象年齢の引き下げや、地域内交通への適用対象の拡大など、公共交通機関の整備にあわ

せた高齢者外出支援事業の拡充を図ってきた。

公共交通空白地域の解消や定時性・速達性の向上などにおも一層取り組んでいく。また、バス路線とLRTや地域内交通などの乗り継ぎの利便性向上や、公共交通の利用者負担についても検討していく。

問 高齢者の運転免許自主返納の促進においても、公共交通の整備など、誰もが移動しやすい環境づくりは、自主返納につながるきつかけとなり、重要と考える。公共交通の整備と自主返納につながる具体的な支援事業の検討を進めていく。



▲富山市のおでかけ定期券(富山市提供)

その他の質問項目

- ①LRTと市民合意②LRTと市民負担③LRTに反対する市民団体への「偽計業務妨害」呼ばわり④LRTとネットワーク型コンパクトシティ・駅西側延伸論とのかわり⑤国民健康保険の今後⑥生活保護行政⑦市民の安全とオリエンタールド



塚原 毅繁
(自民党)

**子育て家庭への
切れ目ない支援で
虐待防止を**

問 児童虐待は全国的に増加傾向にあるが、防止のためには妊娠前から子育て期にわたり、子育て家庭に寄り添いながら切れ目ない支援を行うことが重要である。

①乳幼児健康診査を受診していない子どもは虐待のリスクが高いとされているが、本市の受診状況と未受診者への対応について聞く。

②市では、29年10月から産後ケア事業を実施するが、虐待の未然防止がどのように強化されるのか。

答 ①28年度の受診率は乳児健診が96・6パーセント、幼児健診が96・2パー

セントとなっている。未受診者に対しては必要な支援につなげるため、対象家庭の全戸訪問を行っている。

②これまでの母子健康手帳交付時の健康相談や生後4ヶ月までの乳児がいる家庭の全戸訪問に加え、29年10月から、産後期のすべての母親を対象に産後うつ検査を実施し、その結果を踏まえ個々の状況に応じた休養や母体のケアなどを行う宿泊・通所・訪問型の産後ケア事業を実施する。

この事業の実施により医療機関等との連携がより緊密になり、これまで以上にきめ細かな支援体制を構築することができる。



その他の質問項目

- ①城東地区周辺におけるバス路線の充実②自転車交通安全教育③道路施設の老朽化対策④宇都宮東部土地区画整理事業⑤消防団員の確保⑥上下水道事業⑦リースクール

ジュニア未来議会を開催

8月9日に、宇都宮ジュニア未来議会を開催しました。市内の中高生がジュニア議員となり、市長に市政への提案や質問を行うもので、今年で13回目の開催となります。

今年48名のジュニア議員が、6月から研修に参加し、市政についての学習や、グループワークを行い、若々しい自由な発想で提案を作成しました。当日は、中高生が主体となって活動できるイベントを企画した



▲市長・議長を囲むジュニア議員

い、との提案に、今年の宮っこフェスタから取り組んでいくと市長が答え、10月7日の宮っこフェスタで実現しました。そのほか、多くの斬新でユニークな提案が出されました。

市議会へのご意見をお寄せください

市議会では、議会活動の活性化を図るため、市民の皆さんのご意見を募集しています。

- 《対象》市内在住又は通勤通学している人
- 《方法》手紙、ファクス、Eメールなど(文字で読める形式のもの)
- 《ご意見に対する回答》
おおむね1カ月程度を目安に回答します。住所・氏名の記載がない場合などは回答していません。
- 《公表》
ご意見と回答の内容をホームページや広報紙で公表する場合があります。(住所・氏名は公表しません。)
- 《送付先》
〒320-8540 宇都宮市旭 1-1-5
宇都宮市議会広報聴取委員会
FAX 028-632-2613
Eメール u79002000@city.utsunomiya.tochigi.jp
議会事務局政策調査課 電話 (632)2611

